

「自分で考える」ことに挑戦し「みんなで考える」

16

9 DEC. 2025

学力向上検討委員会による公開授業。今回は西春近北小学校にお伺いして学び合いました。公開していただいたのは4年の理科の授業「ものあたまり方」です。西春近北小学校では研究テーマを「自らの考えや思いを伝え合い、深める学び～自分で考える みんなで考える～」として研究を進めています。

児童が自分の考えをイラスト、言葉、写真など多様な形で表現し、それをICT（スクールタクト等）を通じて共有することで、他者の考えに触れながら自らの思考を深める学習活動は、「自分で考える」ことに挑戦し、「みんなで考える」姿として現れていました。

児童は、実験で観察した水の動きを「矢印で書き込む」ことで表現したり、写真に矢印を書き入れたり、絵で温まり方を表現したりします。

ピーカーの絵のような「書き入れやすい」工夫があることで、自分の考えを迷わず表現できていました。これは、言葉だけでは伝えきれない直感やイメージを具体化し、「自分で考える」過程を明確にする手助けとなっていました。

児童は、目の前の現象を「勝手に拡大解釈しない」で、「事実からわかることは何か」を真摯に探究しています。例えば、「温まった水は上に行く」という事実のみを記述し、安易に対流と結びつけ

ない姿勢は、科学的思考の基礎を育むうえで大切です。教師が「なんで下に行くの？なんで下に戻るの？」と問いかけることで、児童は現象をより深く考察しようとしていました。

「覗き込んでずっと見る」という児童の姿は、ICTに頼りきらずに「現物をきちんと見る」ことの重要性を示し、深い集中と思考を伴う「自分で考える」活動の核心を捉えています。

児童は、撮影した実験動画を「スロー再生してみたり」、「実写真を取り込んで貼り付ける」な

ど、ICTを単なる記録ツールとしてではなく、自分の思考を深めるための能動的な手段として活用しています。

児童たちは「ほとんど同じだな」と感じる予想の中に潜む「何がちょっと違うのか」に着目し、さらに深く議論を追究しようとしています。児童が他者の予想に「いいね」をつけたり、共有された矢印の表現に影響されたりする様子は、ICTを通じた共有が教室全体の思考を活性化させ、集団として探究に取り組む「楽しさ」を生み出していることを示唆しています。



教員同士の対話をもたらし楽しさや学びの深さを実感

学力向上検討委員会では、公開授業に参加された先生方が「授業について気軽に話すことの楽しさ」を実感することで、自身の教育実践を一步前に進め、より深めていくことができると考えています。そしてそれが、子どもたちの学習を促進するために欠かせない要素であると捉え、公開授業を企画しています。

参加された先生方には、授業を参観する中で「やっぱりここが大事だね」と感じたことを持ち帰っていただけるよう、「みんなで自由に感想を出し合う場」を設けています。委員の先生に限らず、どなたでも気軽に参加できる参観の機会を多数ご用意していますので、都合の良いときにぜひご参加ください。



児童が自分の考えをイラスト、言葉、写真など多様な形で表現している



伊那市の先生が誰でも参加できる公開授業・研究会です

授業の詳細はTeams「InaWaku2025授業づくり」参照

西春近北小学校 新倉彩由香 先生の授業と研究会の様子を推進センターでまとめさせていただきました

伊那市学校教育情報化ビジョン2024

探究的な学び

先進的な学び

個別最適な学び

協働的な学び

自立的な学び

子どもと共に未来を創る教員